

あゝ成る程是れは叶ひ相も無い想ひ事やと思ふたら、決して御兩親には云ひは致しまへん。私に丈
け……………なア。どふぞ聞かして頂き度ふムります。」

『大きに有難ふ、私見たいな者を主人やと思えば、そ、よふこそ其處まで案じて呉れる。其心にほだ
されてお前に丈け聽て貰はふ。決して誰にも云ふてなや。』

『いや宜しふムります、減多に喋りは致しまへん。』

『實はなア……………。』

『へえ……………。』

『あゝ恥しい。……………笑ふてなや。』

『中々笑ひます物か。恐い顔して居ります……………。』



『別にそんな顔せえでも良え……………實はなア……………肌合の緻い……………光澤の良え……………』

ふつくりとした……………。』

『へえ／＼左様かいナ。いくつ位の……………。』

『一つでもかめへん。』

『もし、冗々云ひなはん。嬰兒見たいな者どふなりまんね。……………矢つ張十七八の……………』

『番頭、お前勘違ひしてやへんか、私いの欲しいのは婦女はんや有れへん。蜜柑や。』

『えゝツ。』

『蜜柑が喰べたいのや。』

『えゝツ。みーかーん。』

『それ見いナ。云ふたかて及びもつかんやろ……………。』

『何云ふてなはる。高の知れた蜜柑位なんだすネ。よう仰有た、暫く待つとくなはれ。直ぐ丁稚に買
ひに遣ります。何なら此室を蜜柑づめにでも致しまつせ。』

『えツ。そんなら諾いて呉れるか。有難い、待つてるで』

『宜ろしおます。待つとくなはれや……………へイ親旦那様。伺ふて参りました。』

『おゝ／＼。番頭どん御苦勞ちやつた、中々急には云はなんだぢやろ。』

『仰有る通り、随分骨が折れました、叶ひ相も無い願ひ、云ふも不孝云わぬも不孝と仰有りましたナ
それをばまア、段々と事を分けて訊いて見ますと、とふ／＼云ふて下さりました。』

『此通り、手をついてお禮を申します。よふこそ訊いて遣て下された。して俸は何と申しましたナ。』
『それがナ。肌合の緻い、光澤の良え。ふつくりとした……………。』